

一般質問

9月定例会では、17人の議員が登壇し、下記の内容について一般質問を行いました。

令和7年第3回花巻市議会定例会 一般質問一覧（登壇順）	
照井 省三 議員 (社民クラブ)	①いわて花巻空港を特定利用空港の対象とすることについて ②最低賃金改定に伴う対応について
久保田彰孝 議員 (日本共産党花巻市議会議員団)	①中小企業支援について ②鳥獣被害について
佐藤 峰樹 議員 (明 和 会)	①第3期県立高等学校再編計画について ②学校運営協議会について ③矢沢中学校周辺の道路環境整備について
本館 憲一 議員 (はなまき市民クラブ)	①水田農業政策について
伊藤 盛幸 議員 (緑 の 風)	①道路の損傷通報について ②教育委員会の職務権限について
若柳 良明 議員 (社民クラブ)	①農業について ②鳥獣被害状況について ③コミュニティ会議の活動について ④衛生委員会について
照井 明子 議員 (日本共産党花巻市議会議員団)	①医療的ケアが必要な人の災害対策について ②行政文書の情報開示について
伊藤 忠宏 議員 (明 和 会)	①道路周辺及び河川の樹木について ②高齢者の自動車運転について ③道路の除雪について
羽山るみ子 議員 (はなまき市民クラブ)	①新花巻図書館整備について ②クマ対策について
鹿討 康弘 議員 (緑 の 風)	①観光政策について ②J R花巻駅橋上化及び新花巻図書館整備について
阿部 一男 議員 (社民クラブ)	①農業問題について ②有機農業について ③米の直播栽培について
櫻井 肇 議員 (日本共産党花巻市議会議員団)	①乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）について ②マイナ保険証について ③県立大迫高等学校の存続について
小原 保信 議員 (明 和 会)	①農業振興について ②廃校舎の利活用について ③防災道の駅について
小森田郁也 議員 (緑 の 風)	①（仮称）花巻市こども計画について ②小中学校の教室を避難所として活用することについて ③災害用トイレカーについて
似内 一弘 議員 (緑 の 風)	①公共空間の活用について ②宮沢賢治童話村整備事業について
佐々木精市 議員 (会派に所属しない)	①米の生産について ②林業振興について
菅原ゆかり 議員 (会派に所属しない)	①投票しやすい環境づくりについて ②農作物の洪水対策について ③子育てしやすい環境づくりについて

■花巻空港を特定利用空港
対象とすることについて



照井 しょうぞう 議員

特定利用空港は、自衛隊や海上保安庁が平時から空港を円滑に利用するもの。軍事利用の懸念もあり、対象とすべきではない。

国が花巻空港を特定利用空港に指定しようとする。市に対して意見を伺う意向であると認識している。県が市の意向を無視して同意することはないと考えている。県から市の意向について問い合わせがあった場合、市民の安全を守ることが最重要であることから、その観点から対応するよう考えている。

■地域包括最低賃金の改定について



市として、市内の小・零細事業者への最低賃金引上げ改定の周知と事業者への支援策について伺う。

市のホームページや広報はなまきのほか、市内事業者を対象としたメールマガジン等を活用して周知する。県の「物価高騰対策賃上げ支援金」の活用推進。また、賃上げ原資を確保のため、企業の生産性向上を図る取り組みに対し支援を行う。賃上げの直接的支援に限らず、事業者への支援の在り方を検討する。

一般質問

■中小企業支援について



久保田 けんたろう 議員

県は、中小企業者へ物価高騰対策賃上げ支援金を交付している。市は県と連携して、賃上げ支援に取り組むべきではないか。

一般的に大企業に比べて財政基盤の弱い中小企業においては、原材料や燃料費、労務費などの価格高騰による経営への影響を受けやすい。市としては、補助金といった一時的な支援よりも、適正な価格転嫁や生産性の向上などによる収益の増加により賃上げの原資を確保できるような、根本的

■イノシシの被害対策について



イノシシは北幹線水路に架かる橋を往来しているのではないかと推測されている。往來できないように柵を設けられないかについて伺う。

当該道路は林道（東松沢線）となっており、利用者全員の了解があれば、イノシシの侵入を防ぐ施設設置は可能。対策を考える上で、まずこの付近にAIカメラを設置し、実際にイノシシがこの橋をどの程度渡るかについて調査する必要がある。

■高校再編について

第3期県立高等学校再編計画当初案をどのように評価し、具体的な案が示された各高校に対して市としての将来ビジョンを描いているのか伺う。

当初案では、令和9年度に大迫高校、令和10年度に花北青雲高校情報工学科を募集停止すると公表した。市としては、地方創生や小規模校の特色ある教育を展開していることや地元企業の人材等を養成する非常に重要な高校と認識しており、いづれにも再考するよう引き続き県と協議していく。



佐藤 みのる 議員

■学校運営協議会（コミュニティ・スクール）について

制度導入後の成果と課題の認識、今後どのように発展させていく考えであるのか伺う。

全ての中学校区に協議会が設置され、地域と共にある学校づくりを推進している。成果としては、地域学校共同活動により、子供達の地域への愛着心が高まっていると捉えている。課題としては、制度の周知が進んでいないことや地域コーディネーターの人材確保に苦慮している。今後は、課題解決に向けた協議や更なる学校の見える化を推進していく。



■国の米の増産政策転換について



もとだて けんいち 議員

米の増産の実現は容易ではなく、価格の安定が見通せない。国の米の増産政策転換に対して市の見解を伺う。

基本的には、将来を見据えた国内需給状況を国が的確に把握し、在庫の状況の見通しを立て、それを基にした県から示される生産目標の作付けになるようにすること。これを生産者にお願するという。今までの形を維持することが、今後においても米の価格安定に非常に大切であると認識している。

■現状の米の生産費用について



担い手不足は、生産費を賄えない生産者の手取りが続いたことが大きな原因と考える。現状の米の生産費用を伺う。

国が令和6年10月30日に公表した東北の令和5年産の米生産費は、作付規模が1ha以上3ha未満の農家では10a当たり13万4099円となっている。内訳は10a当たりで肥料費1万2090円、薬剤費7996円、農機具費2万3396円、労働費3万2855円である。肥料や資材等の価格が高止まりして農業者の経営を圧迫する状況である。